

平成23年行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	再生医療の実現化プロジェクト		担当部局庁	研究振興局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成20年度～		担当課室	ライフサイエンス課		ライフサイエンス課長 石井康彦		
会計区分	一般会計		施策名	X-1 ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	iPS細胞(人工多能性幹細胞)研究等の加速に向けた総合戦略改訂版(平成21年1月文部科学大臣決定)、iPS細胞研究ロードマップ(平成21年6月文部科学省)、新たなライフサイエンス研究の構築と展開(平成21年12月ライフサイエンス委員会)、第3期科学技術基本計画(平成18年3月閣議決定)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	世界でも比類なき高齢化社会を迎えている我が国において、難病・生活習慣病に対し、これまでの医療を根本的に変革する可能性のある細胞移植・細胞治療等による再生医療について、iPS細胞等を用いた革新的な幹細胞操作技術や治療技術等を世界に先駆け確立し、その実現化を目指す。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	iPS細胞は、再生医療・疾患研究等に幅広く活用されることが期待される我が国発の画期的成果であり、この研究成果を総力を挙げ育てていくため、iPS細胞等研究拠点(京大・慶応・東大・理研)と個別研究事業実施機関により、オールジャパン体制のもと戦略的に研究を推進。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
	予算の状況	当初予算	2,000	2,650	2,370	3,800	5,250	
		補正予算	1,500	4,909	-	-		
		繰越し等	▲ 65	▲ 645	695	15		
		計	3,435	6,914	3,065	3,815	5,250	
		執行額	3,428	6,849	3,030			
	執行率(%)	99.8%	99.1%	98.9%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値(年度)
	(上段)前臨床研究を実施している課題数 (下段)疾患特異的iPS細胞の樹立数		成果実績	個	0 5	4 22	4 40	-
			達成度	%	-	-	-	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	課題数及び機関数		活動実績	機関数	23	23	23	-
				課題数	15	15	15	
単位当たりコスト	132(百万円/機関)		算出根拠	132(百万円/機関) =(平成22年度執行額:3,030百万円)/(実施機関数:23)				
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	科学技術試験研究委託費	3,796百万円	5,242百万円	「再生医療の実現化ハイウェイ」の新規公募の実施、また、厚労省と協働で新たな取組として「疾患特異的iPS細胞を活用した難病研究」を実施することに伴う増1,446百万円				
	諸謝金	0.7百万円	2.2百万円					
	職員旅費	1.3百万円	1.5百万円					
	委員等旅費	1.3百万円	3.8百万円					
	庁費	0.2百万円	0.6百万円					
計	3,800百万円	5,250百万円						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>○明確な目標・計画に沿って国の委託事業として実施する政策課題対応型の研究開発であることから、支出先の使途の把握については、これまで厳格に実施している。具体的には、全ての委託契約について、支出先・使途を把握し、備品が適切に購入されたか等について、現地での確認等も含む額の確定調査を実施している。</p> <p>○成果報告書の提出、研究機関へのサイトビジット等により、事業開始時の当初計画と比べた進捗状況や今後の展望について毎年度確認している。</p> <p>○本事業における、さい帯血幹細胞を収集して研究者に提供することを目的とした「研究用幹細胞バンク整備領域」については、今後、パイオリソースとして効率的に収集・保存を行い、幅広く研究者の利用に供していくための体制を検討すべき。</p> <p>○難病・疾患研究や創薬へのiPS細胞等の応用については、体内に細胞等を移植することがないため、再生医療よりも早期の実用化を期待されており、本事業において、疾患特異的iPS細胞を樹立・提供してきたが、本事業の成果を迅速に社会へと還元していくことが重要。そこで、難病・疾患研究を支援する厚生労働省等との連携を強化し、基礎研究の成果を実用化する取組を実施すべき。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>1. 事業評価の観点：この事業は、iPS細胞等を用いた革新的な幹細胞操作技術や治療技術等を世界に先駆けて実現化することを目指す競争的資金である。</p> <p>2. 所見：この事業は、平成21年度レビュー等の指摘を踏まえ、23年度において予算の縮減を図るなど一定の見直しを図ったことは評価するものの、引き続き、事業の効果的・効率的な実施を目指し、事業の重点化、コスト削減等に努めるべきである。また、「平成23年度科学・技術重要施策アクション・プラン」に沿って資金の使用ルール等の統一化及び簡素化・合理化を進めるなど、研究者にとって使いやすく、かつ、国費が有効に使われるような事業にしていくべきである。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
<p>○関係省と協働で連続的な支援体制を実施することで、前臨床段階から実用化に至るプロセスを加速する等、事業の効果的・効率的な実施に努め、事業の重点化を図ることで、概算要求に▲100百万円反映した。</p> <p>○「平成23年度科学・技術重要施策アクション・プラン」に沿って使用ルール等の統一化及び簡素化・合理化を進めるなど、研究者にとってより使いやすい制度としていく。</p>			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			
<p><事業仕分け> 第3弾 ワーキンググループA ○事業番号・事業名：A-24・競争的資金 ○WGの評価結果 (制度)：見直しを行う (予算)：予算要求の縮減(1割程度) ○とりまとめコメント：残念ながら、これまでの仕分けの結果が十分に理解されていなかった。科学技術振興調整費については、継続事業終了時点を持って廃止、つまり23年度の新規事業の募集は停止。トップダウン型事業については一つに統合。そして研究成果最適展開支援事業と産学イノベーション加速事業についてはボトムアップ型の科学研究費補助金とトップダウン型の戦略的な競争的資金とは別立てで、民間の負担をいれて行うべきものであるかも含め整理すること。 予算については、実際の研究に必要な部分に効果的に使っていたことに異論はないが、特にトップダウン型事業を集約することに伴い、様々な手間・手続きを整理することによって、1割程度削減しても同等の成果が得られることから、1割程度の削減とする。</p> <p><政策評価書> ○政策評価書記載ページ：http://www.mext.go.jp/a_menu/hyouka/kekka/1291037.htm</p> <p><関連ホームページ等> ○事業ポンチ絵：http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afiedfile/2011/01/11/1301074_03.pdf ○事業のホームページ：http://www.stemcellproject.mext.go.jp/</p>			

文部科学省

3,030百万円

諸謝金 1.0百万円
職員旅費 0.6百万円
外国旅費 0.3百万円
委員等旅費 0.4百万円
庁費 0.1百万円

を含む

世界でも比類なき高齢化社会を迎えている我が国において、脊髄損傷、心筋梗塞、糖尿病等の難病・生活習慣病に対し、これまでの医療を根本的に変革する可能性のある細胞移植・細胞治療等による再生医療について、iPS細胞等を用いた革新的な幹細胞操作技術や治療技術等を世界に先駆け確立し、その実現化を目指す。

[公募・委託]

A. 再生医療の実現化プロジェクト
: 3,028百万円

大学・独立行政法人等(全23機関)

iPS細胞は、再生医療・疾患研究等に幅広く活用されることが期待される我が国発の画期的成果であり、この研究成果を総力を挙げ育てていくため、iPS細胞等研究拠点(京大・慶応・東大・理研)、個別研究事業実施機関により、オールジャパン体制のもと戦略的に研究を推進。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

A. 独立行政法人理化学研究所			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
設備備品費	共焦点レーザー顕微鏡 外部検出器等	552			
間接経費		257			
業務実施費	消耗品費(試薬類)	180			
	雑役務費(保守契約、飼育管理等)	48			
	その他(印刷製本費、消費税相当額等)	13			
人件費	研究者及び研究補助者	63			
計		1,112	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

※四捨五入により合計額は一致しない。

支出先上位10者リスト

A. 再生医療の実現化プロジェクト

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	独立行政法人理化学研究所	ヒト多能性幹細胞の分化誘導・移植の技術開発と技術支援のための総合拠点	1,112	企画競争	-
2	国立大学法人京都大学	京都大学iPS細胞研究統合推進拠点	575	企画競争	-
3	学校法人慶應義塾	再生医療の実現化を目指したヒトiPS細胞・ES細胞・体性幹細胞研究拠点	393	企画競争	-
4	国立大学法人東京大学	ヒトiPS細胞等を用いた次世代遺伝子・細胞治療法の開発、研究用臍帯血幹細胞バンク整備	377	企画競争	-
5	国立大学法人大阪大学	iPS細胞からの心筋分化系の確立ならびに動物モデルによる評価、PS細胞を用いた自家角膜再生治療法の開発	85	企画競争	-
6	財団法人先端医療振興財団	研究用臍帯血幹細胞バンク整備、プロジェクト全体にかかる事業推進	70	企画競争	-
7	独立行政法人国立成育医療研究センター	再生医療対応ヒトES細胞樹立と長期安全性・品質保持システムの確立 -戦略的ヒトiPS細胞を先導する基盤研究-	52	企画競争	-
8	国立大学法人名古屋大学	iPS細胞由来血管前駆細胞を用いた新規血管再生医療の展開研究	50	企画競争	-
9	独立行政法人国立精神・神経医療研究センター	筋ジストロフィーに対する幹細胞移植治療の開発	49	企画競争	-
10	国立大学法人熊本大学	iPS細胞から膵β細胞への分化制御と糖尿病再生医療の基盤開発	40	企画競争	-

※平成20年度に公募を実施したもの。